

作物名：水稲

病害虫名：イネヒメハモグリバエ（イネミギワバエ）（学名：*Hydrellia griseola*）



写真1 幼虫



写真2 被害葉

1 被害状況

（1）被害の特徴

- 幼虫が葉身に食入し、葉肉を食害して白い筋状の食痕となる。
- 発生が多いと1葉に数頭の幼虫が食入し、ひどいと被害を受けた株は熱湯をかけたようになる。被害が大きいと枯死する。
- イネに対する加害は生育初期に多く、繁茂したイネには産卵せず、イネ科雑草に寄生する。

（2）虫の特徴

- 幼虫：乳白色のウジ虫。葉肉に潜る。

2 生態

- 1年に4～8回発生する。
- おもに蛹でイネ科雑草の葉肉や葉鞘の中、あるいは根際で越冬する。
- 第1回の成虫は4月中旬に羽化して雑草に産卵する。第2回の成虫は5月末ころに羽化し、イネに飛来し水面に垂れている葉に1粒ずつ産卵する。
- 成虫は水辺や湿地を好み、水面近くを飛んだり、水面に浮かんだりする。
- 生育期間は卵3～7日、幼虫10日～2週間。
- 成虫は水を好み、水面スレスレを飛び、水面を歩行し、移植直後の垂れ葉や流れ葉など水面に接している部分に好んで産卵する。

3 発生しやすい条件

- 4月下旬の早植え…イネへの産卵量が多くなる。
- 春が低温または山間の低温地…深水管理をすると、葉が水面に垂れて産卵しやすくなる。

4 防除方法

（1）耕種的防除

- 徒長苗の使用や極端な深水管理、早植えは被害を受けやすくなるので避ける。

（2）化学的防除

- 育苗箱施用剤による防除が効果的である。

5 出典

（1）参考文献

- 宮城の稲作指導指針（基本編）

- 原色病虫害診断防除偏 1（農文協）
 - 日本農業害虫大辞典（全国農村教育協会）
- (2) 写真
- 宮城県病虫害防除所撮影

（令和5年9月改訂）